

項	教育目標	重点目標 (努力目標)	具体的な取組	取組状況・成果・課題	自己評価 (4点満点)	学校関係者からいただいた 評価・意見等	改善策 ※左欄(学校関係者からいただいた評価・ 意見等)を踏まえた改善策には、 <u>下線</u>
心豊かにたくましく生きる 神戸の子供を育む	(教育目標を記載)	「どうすればよいのか」を考える力	基礎基本を大切にしたい授業づくり	学習の中で、「児童自身が考える」場面を各学習に取り入れるようにしている。考えて答えを出すためには、各教科の基礎基本の力が大切になるので、パワーアップタイムやドリル学習などに組み込み、考える力の根幹を育てるようにしている。	2.9	例年よりも短い期間で例年と同じ内容を学習してきたことで、児童の基礎学力の定着がきちんとしているのが気になる。来年度以降も基礎基本の習熟の機会を大切にしていきたい。	<u>朝に、基礎基本を学習する時間を設定し、計算や漢字を中心に、繰り返し学習することで、基礎学力の定着を図る。また、引き続き、算数学習では、学年外の教員も支援に入る、パワーアップタイムを計画的に実施していく。</u>
		「ありがとう・ごめんなさい」の心を育む	家庭・地域・学校で元気なあいさつができています	あいさつの目標を設定し、全校朝会や各学級の朝の会で繰り返し指導をしている。教室での挨拶は良好であるが、教室外や地域での挨拶に課題がある。	2.4	先生方が思っているほど、挨拶は悪くない。地域では、声をかけると挨拶が返ってくる。集団登校が個別登校になって、挨拶がよくなったと思う。登校時に見守っている保護者の声掛けも大きいと思う。	委員会活動や各学年の取り組みとして児童による挨拶運動を工夫して実施していく。職員が進んで児童に挨拶をし、校内で挨拶が活発に行われるようにしていく。
		思いやり、やさしさのある言葉づかいができています	思いやり、やさしさのある言葉づかいができています	テレビや動画、ゲームの影響からか、乱暴な言葉が増えている。休み時間や授業内で友達と夢中になって取り組むことがあった際に、勝敗にこだわり、乱暴な言葉が出ることもある。道徳の学習で、様々な場面を例に挙げながら相手を思いやることについて考えている。	3.1	スポーツサークル等では、高学年が低学年のお世話を進んでいる。自分で考えて、低学年のために行動する高学年が多く、頼もしい。SNS等での会話が増えているので、対話することの大切さも伝えていってほしい。	「場面」と「相手」を明確にし、授業中と休み時間における言葉の使い分けや、来校者・教職員に対する <u>ていねいな言葉遣いを具体的に指導していく。また、SNS等におけるマナーについてもあわせて指導し、保護者にも啓発していく。</u>
		自分を律する力を育てる	家庭・地域・学校で、きまりを守って生活しています	高津橋スタンダードを使用し、学校の約束や持ち物の約束などを、全学年・全学級で徹底するように努め、教員が、足並みをそろえた指導ができるようになった。ただ、チャイムで授業を開始することができていない学級もある。休み時間の際には、教員が運動場に出て、児童に声をかけるよう努めている。 放課後の遊びについては課題も多く、地域からご意見をいただくこともあった。(路上での遊び、ボールの使い方、ごみの処理等)。	2.5	多くの先生方が運動場に出て見守りをしてくださっていることはありがたいし、子供たちの安心にもつながっている。校外での生活では、歩道遊びながら歩いたり、信号のないところを自転車や横断したりする児童の姿を見かける。交通安全指導については、繰り返し指導を続けてほしい。公園に遊び方の制限が多く、運動する機会がなくなってしまっているためか、公園でゲームをして遊ぶ児童が増えてきている。	今年度を振り返り、「高津橋スタンダード」の改訂を行い、4月中に全教員で内容についての研修を行い、理解を深める。休み時間は、学年で分担して、校舎内と運動場の児童の安全管理に引き続き努める。また、地域での過ごし方については、 <u>定期的な指導を行い、きまりの意味について考える機会を設けていく。</u>
	サイレントそうじ・サイレント移動ができています	昼休みから掃除への移行が難しく、スタート時刻が守れていない。また、サイレント掃除は基本的には我慢する心を育てる時間であるが、我慢ができずに話す児童や指導のために声を出す教員が増えてきている。	2.1	数年前までは、サイレントでなければいけないという義務感で児童が頑張っていたように思う。最近では、伝えたいことがあると、すぐに口を開いているように思える。先生方で、サイレントですることの目的をしっかりと意思統一して、取り組んでほしい。	<u>教員間で、サイレントそうじやサイレント移動の意義について共通理解できるように、年度当初に研修を行い、足並みがそろったスタートを切れるようにする。</u>		

安全・地域と共に楽しい学校を築き、

職員研修	ICTを活用した授業づくり	今年度から各教室に導入されたICT機器を効果的に授業で使うために、学年や個人で研修を進めた。まだまだ使用法を模索中ではあるが、引き続き児童の学びの助けとなる使い方ができるように研修を進めていく。	3.2	ICTを活用した授業が導入されたことで、児童が理解するための助けになっていることはとても良いと思うが、今後、一人一台端末が浸透してくると、個々のコミュニケーションはどうなるのだろうかという不安がある。デジタルとアナログの使い分けを大切に授業を進めてほしい。	ICT機器を授業の中でどのように使えば効果的なのかをしっかりと考えていく。何にでもICT機器を使えば良いのではなく、ICT機器を使う場面とアナログで進める場面とを使い分けることができるようにしていく。また、算数科の授業づくりについての研修を進め、単元デザインや主体的に学ぼうとする力を育成し、児童が自信をもって前向きに取り組めることができるようにしていく。
	臨時休校期間中の児童への課題づくり	低学年では、児童が保護者と一緒に学習をする際に保護者に学習の進め方が分かるような冊子を作成、高学年では児童が自分の力で学習できるように解説を盛り込んだワークシートの作成に取り組んだ。また、ホームページを活用して、家庭学習の助けになるよう取り組んだ。	3.2		
	いじめ防止基本方針に基づくいじめ防止対策に関する取組(いじめ問題対策委員会)	いじめアンケートを年2回行い、その結果をもとに担任が児童と面談を行い、児童の抱える問題について解決を図った。また、場合によっては、いじめ問題対策委員会で解決を図り、全職員で共通理解することを大切にしたい。日常的に児童の言動を注視することや、道徳学習での教材の選択等により、未然防止・早期発見にも努めている。	3.3	ゲームや動画の影響からか、乱暴な言葉遣いをする児童は増えている。SNSを介して話すことが多い今だからこそ、顔と顔を合わせて話すことで、お互いに理解し合えることもあるということを学校では伝えてほしい。	日々の児童の様子を観察、いじめアンケートの実施、いじめ問題対策委員会における情報交換などを引き続き行い、全教職員で児童を見守ること、組織的に速やかに対応することを大切にしたい。また、SNSを介したトラブルの防止のため、関係機関と連携して学習を行っていく。
	業務改善	年度当初に施錠時間を設定し、緊急の案件がない限りは、その時間に施錠することを心がけた。また、毎週火曜日にはエコーを設定し、全職員が早く退勤できるように取り組んだ。会議の開始・終了時刻の設定。提案者の提案の仕方の工夫等で、会議時間の短縮にも努めた。	2.8	業務がたくさんあることで、それをばねにできる先生と、それが負担になる先生とがいるはず。先生同士、コミュニケーションをしっかりとって、それぞれの負担軽減に努めてほしい。先生方がやらなくてもいいことを明確にして、先生としてあるべき姿になってほしい。地域でできることは、地域で頑張っていく。	終業時間を意識して、効率よく業務を行えるようにしていく。また、児童と向き合うための時間を確保するために業務の精選もあわせて行っていく。教職員同士のコミュニケーションも大切にし、仕事が負担に感じている職員がいなくなつても気を配っていく。
	登下校時の見守り	校区内の危険箇所を把握し、登下校時に職員が見守りを行った。また、校内の安全管理の面から、登校時には各担任が教室で児童を迎えるように取り組んだ。本年は、新型コロナウイルス対策で担任は教室で子供を迎える形式をとった(例年行っていた集団登校は行わず、蜜を避けることのできる個別登校とした)。子供たちの健康状態の把握、手洗いの徹底等、子供たちが安心して登校できる体制づくりを一番に考え対応した。	3.6	保護者が地域に出て見守りができている。先生方が、朝教室で待ってくれていることがありがたい。児童が安心して登校できている。集団登校をしなくなったことで、遅刻して登校している児童が増えているのではないかと。遅い時間帯に下を向いて歩いている児童を見かけることもある。	保護者に登下校時の見守りへの協力を引き続き呼びかけていく。担任は教室で児童を迎え、校内での児童の安全管理及び感染症対策の実施に努める。遅刻が重なる児童には、個別に話を聞くことや保護者と連携することを大切にしたい。
	感染拡大防止対策	児童・来校者に対して検温や手洗い、マスクの着用を徹底し、使用したものの消毒作業に取り組んだ。また、授業においては飛沫がでないよう工夫した取り組みをしたり、互いの距離を十分にとって活動するなど、新しい形態の授業づくりにも取り組んだ。	3.6	対策をしっかりとっていただけているのはありがたいが、先生方の大きな負担になっているのではないかと。保護者や地域にできることはないだろうか。	手洗い、マスク、換気等、定期的に児童ができていないかを確認し、指導をしていく。授業や行事の形態についても、常に感染拡大防止対策がとられているのかを考えながら行っていくようにする。